2025年11月社長会見



- 1. 営業・輸送概況
- 2. 光ファイバセンシング技術を鉄道に!NTT 西日本と共同検証 ~振動検知による線路状態モニタリング~
- 3. 熊本エリアでの取り組み

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入(速報値)】

収入につきましては、10月は対前年107.6%、11月は7日までの1週間で107.3%です。

運輸取扱収入 (速報値)

	前年同日比						
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券			
10月	107.6%	108.7%	109.2%	102.1%			
11月 (11/1~7)	107.3%	107.9%	107.0%	107.5%			

[※]実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況(速報値)】

次に、ご利用状況ですが、山陽新幹線は、10月が前年比109%、11月が7日までで103%です。近畿 圏につきましては、10月が106%、11月が7日までで104%となっております。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況(速報値)

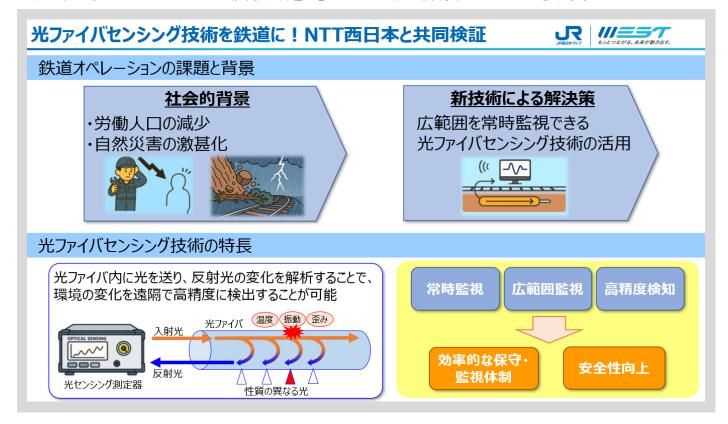
	前年同日比					
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏		
				近距離券発売枚数	自動改札通過人員	
10月	109%	102%	107%	106%	104%	
11月(11/1~7)	103%	102%	106%	104%	103%	

[※]実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績と自動改札通過人員の前年同日比を併記しています。

大阪・関西万博の閉幕後も、多くのお客様にご利用いただき、昨年を上回る実績で推移いたしております。 引き続きお客様に安心してご利用いただけるよう安全安定輸送に努力してまいります。

2. 光ファイバセンシング技術を鉄道に!NTT 西日本と共同検証 ~振動検知による線路状態モニタリング~

次に、「光ファイバセンシング技術を鉄道に」について、ご説明させていただきます。



現在、鉄道のインフラを取り巻く環境は大きく変化しておりまして、少子高齢化による労働力人口の減少や自然災害の激甚化は、鉄道オペレーションにも大きな影響をもたらしております。こうした環境変化の中、 当社にとって鉄道の安全運行を支える保守・監視体制の維持は大きな課題となっております。

そこで私どもは、マンパワーにできるだけ依存せず広範囲を常時監視できる技術として「光ファイバセンシング」という技術に着目し、2023 年度より学研都市線などをフィールドとして、NTT 西日本様と共同で検証を進めてまいりました。

光ファイバセンシングとは、光ファイバ内の光の変化を解析し、振動や温度、歪みなどの環境の変化を高精度に検出する技術です。

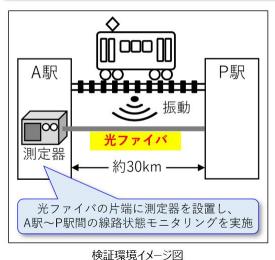
この技術を活用することで、常時、広範囲を高精度に監視することができ、効率的な保守・監視体制と安全性の向上の両立が可能となると考えております。

光ファイバセンシング技術を鉄道に!NTT西日本と共同検証



具体的な検証内容

- ・線路状態モニタリングにより、列車走行位置を検出
- ・振動により得たデータを実際の走行位置データと照合し、技術の有効性を確認



C駅 下り走行位置デー D駅 E駅 FIIR G駅 H駅 ISR JER. K駅 平均誤差 1 秒以内 L駅 N駅 O駅 P駅

振動により得たデータ(黄線)と実際の走行位置データ(赤・青)を照合した結果

これまでの検証では、既に敷設しております光ファイバを用いまして、線路状態のモニタリングを実施い たしました。その結果、列車が走行することで発生する振動によりまして、列車の走行位置を検出すること ができるということを確認いたしました。

また、右の図に示すように、振動から得られたデータを実際の走行位置データと照合した結果、平均誤差 は1秒以内である、列車の位置をほぼリアルタイムで把握できる精度であることが確認できました。

光ファイバセンシング技術を鉄道に!NTT西日本と共同検証





今後の方向性

既に敷設している 通信用光ファイバ



光ファイバ センシング技術

新たな設備投資を抑えつつ、 線路上に発生する振動の常時モニタリングが可能に

今後の取り組み例

落石•倒木検知

・線路周辺で発生する落石や倒木に起因する振動の検知

設備異常検知

- ・鉄道構造物や線路設備における異常振動の検知
- ・設備健全性の常時監視による持続可能な鉄道システムの構築

この検証を通じまして、既に線路沿いに敷設しております通信用光ファイバを振動センサーとして活用することで、新たな設備投資を抑えつつ、線路上に発生する振動を常時モニタリングできることが明らかになりました。

この技術は、落石や倒木の検知、また設備の異常の検知などへの活用も考えられます。これらについては 2030 年代の実用化を目指し、引き続き検証を深めてまいります。当社といたしましては、鉄道オペレーションの効率化や保守の負担の軽減を図りながら、持続可能な鉄道システムの構築を目指してまいります。



なお、今回の取り組み成果は、11月26日~29日に幕張メッセで開催されます 「第9回鉄道技術展2025」におきましてご紹介いたします。今回の取り組みに加えまして、あらゆる鉄道分野の技術を展示させていただく予定ですので、ぜひお越しいただければと思います。

(鉄道技術展 2025 詳細 https://media.jrw-ip.jp/news/7890/)

3. 熊本エリアでの取り組み

次に、「熊本エリアでの取り組み」についてご説明いたします。

熊本エリアでの取り組み



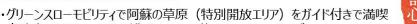


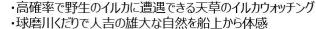
さまざまな企画を展開

- ・熊本DC(2026年7~9月)に向けた機運醸成の取り組み
- ・「動け、好奇心。」キャンペーンの一環として熊本エリアのコンテンツをラインナップ
- ・京阪神エリアを中心に、中条あやみさんを起用したプロモーションを実施

「動け、好奇心。」コンテンツの例

※tabiwa by WESTERにて販売











▲ゲリスロで 阿蘇の大自然を満喫

▲天草のイルカ ウォッチンク

ホテル開業と連携企画

ヴィアインプライム熊本

- •2026年7月開業予定
- ・熊本県初の「ヴィアイン」ブランドホテル
- ・上質な滞在価値をご提供





※イメージパース

セブン・イレブン

- 「ヴィアインプライム熊本」 1階に出店
- ・オープニングセールを予定





※イメージ写真

熊本では、2016年4月に大きな地震がございました。それから来年で10年が経過するということで、 2026年7月から9月にかけまして、全国のJRグループが取り組みますデスティネーションキャンペー ン(熊本 DC)が開催されます。これに合わせまして、当社もさまざまな企画を展開してまいります。

具体的には、先月の会見で発表いたしました「動け、好奇心」キャンペーンの一環としても、熊本の魅力 をお楽しみいただけるコンテンツを、展開させていただきます。例えば、グリーンスローモビリティで阿蘇 の草原を満喫する企画や、9割以上の遭遇率を誇ります天草のイルカウォッチングなど、地域の特色を活か し、地元の自治体や観光事業者の方々が磨き上げていただきました魅力的な体験型コンテンツの数々をご 用意いたします。京阪神エリアでは、2026 年春以降、中条あやみさんを起用したプロモーションも予定 いたしております。

また、当社グループのホテルブランド「ヴィアインプライム熊本」を2026年7月に開業予定です。ビ ジネスはもちろん、レジャーやインバウンドのお客様にもご満足いただける、上質な滞在価値をご提供した いと考えております。加えまして、ホテルの 1 階にはセブンイレブンの出店も計画しております。ヴィア イン、セブンイレブンともに当社グループとしては熊本での初出店ということになります。

多くの皆様に、好奇心の赴くままに態本へ旅にお出かけいただけますよう、魅力的なコンテンツやホテル をご用意し、熊本ならではの旅の時間をご提供してまいります。私からは以上でございます。